

# 福祉は文化

## 施設内美術館 新光苑美術館

### 第4回 中村清治「赤い服の婦人」とクラヴサン



中村清治「赤い服の婦人」は、新光苑美術館を象徴する穏和な美意識とともにある名作で、同館の開館を祝して刊行された画集の表紙を華々しく飾った作品としても知られている。

1935年、神奈川県に生まれた中村清治は、東京芸術大学を卒業後、「黎の会」をはじめとする美術者集団の結成や、国内外の美術展への参加のほか、数多くの渡欧経験が創作意欲と実践の場に良い影響を与え、高い評価を得る作品を発表し続けた。病により利き手の自由を奪われた後も、左手で制作を再開し、2011年に逝去されるまで独自の画法と絵画世界を築いた。生涯を通じた数々の著名な受賞は、中村絵画の栄誉であるとともに、芸術に挑み続けた画家の足音を響かせ続けるものである。

中村清治の作風は、「オーソックスでトナショナル」と評される一方で、「フォルムの単純化」「明暗を絶妙に使い分けたい色彩感覚」「明快な色彩使いで描かれるマチエール」などの評価は試行錯誤の先にある技法確立の道筋を形容している。ここに示されるような多様な画法を駆使した作品群の原点には、写実的に描かれた人物画が存在していることは明らかである。

1999年頃に制作された「赤い服の婦人」は、女性の顔の清々しい表情が印象的であり、女性の纏う赤い衣装と緑の椅子との色彩対比関係は技法の基礎を忠実に踏まえていることが感じられる。しなやかな姿勢の輪郭線を穏やかな色彩が包み込み、画面全体に心安らぐ雰囲気をもたらしている。光と影の描写には重きを置かず、そこに置かれている静物と家具の色彩調和が観覧者の視線に落ち着きを与えてくれる。

淡い緑色の帽子とガラス器、黄色い洋梨、茶色の装置に目を向けると、その高い描写性の中には西洋的な美的感覚が浮遊していることが分かる。特に葡萄の実と葉をモチーフにした背景の壁は、「アート・アンド・クラフツ」に対する意識の表象とも考えられる。静物画の代表作の一つに挙げられる「ガラスコンポートのある静物」にもその傾向があり、これらに表現される西洋的印象と技法の交差が、中村清治の絵画に内包する情緒性へと結び付くことが解釈できる。そして画面全体に置かれる温かな光の存在に気付かされる。

光に対する影ではなく、照明や日光に対する柔らかな光の在り処を画面各所に居着かせることで、緩やかなフォルムを引き立てている。

その方法はシンプルでありながらも大胆な筆致であることを証明するとともに、画家の呼吸が色の騒ぎのように聞こえてくる。そして、色相と形態の狭間に混交するように、17世紀から18世紀に活躍したフランスの作曲家フランソワ・クーブラン「クラヴサン曲集第1巻」が連想できる。クラヴサン(チェンバロ)から奏でられるガヴァンとサラバンドの響きの先に、「赤い服の婦人」は窓の外の風景に想いを馳せている。そのような特異な解釈をも生じさせてくれるのである。

美術家 山下祐樹

# 認定NPO法人 くまがや小麦の会 第16回 定例総会開催

令和4年6月4日 於:ホテルガーデンパレス 千鳥の間

定例総会が2年間、コロナ禍の為に、紙上での開催を余儀なくされてきた。3年振りの開催に、熊谷市長 小林哲也様のご臨席を仰ぎ、40名の会員の皆様にお集まり頂いた。懐かしい顔ぶれが揃い、対面の開催に華やかな雰囲気が出た。小林市長様からの御祝辞を頂戴する中、熊谷市役所に国土交通省から大島英司様をお迎えして、副市長が重任の長谷川泉様と二人体制の市政が始まった事を伺った。交通の要衝、熊谷に新しい風が吹き始めた。総会、審議議案は全て満場一致のうちに、可決承認された。終了後は森田義典氏ピアノコンサートではショパンが降臨したかと思う演奏で総会に花を添えて頂いた。恒例ジャンケン大会は40名の勝ち抜き戦で、見事、栗原健昇先生が栄冠を勝ち取った。各グループにワインが提供され、3年振りの総会が会員相互の無事を確認することが出来た。(H)



五月六月は麦の季節です。冬を越して晩春は青々とした花穂をつけ、初夏を迎えるころ黄金色の麦となつて刈り入れを待つばかり。私たちの「一粒の麦句会」もこの六月で二十八回を数えます。しかもその殆どをメール句会というイレギュラーなスタイルを余儀なくされた下で、初心の皆さまが良く頑張られたと頭の下がらぬ思いが致します。コロナ禍という長い冬を越して、実り多き句会を開きたいと願うばかりです。

一粒の麦句会 令和三年十月 第二十回 兼題「七五三」「小春日」当季雑詠 飛鳥 蘭

# 熊谷の歴史・文化に携わる学芸員の皆さん

熊谷市は旧石器時代から途切れる事なく歴史が積み重なっている町だということを、どれだけ市民が知っているでしょうか。今回はそんな熊谷の歴史文化に日々携わり研究をされている学芸員の皆さんを紹介いたします。熊谷には現在大きな博物館などはなく、3か所の施設でそれぞれ文化行政を担っています。



1 江南文化財センターは江南にあり、主に埋蔵文化財の発掘文化財全般の調査研究を担っています。所長の吉野健さんは入庁して34年目、西別府の幡羅官衙遺跡群に長く関わって来られました。学生時代古墳の研究をされたこともあり、個人的には肥塚古墳群の古墳を丸々3基発掘調査されたのが嬉しかったそうです。

2 市史編さん室は表沼にあり、主に古文書の収集調査研究を担っています。熊谷には沢山の古文書が遺され、今もほとんど収集され、調査に忙しい日々を過ごされています。蛭間健悟さんは歴史資料の調査、歴史本の編集に携わる他、市内の仏像を全て調べています。今年で9年目になるそうです。また、今秋野野子町の資料集を編集中心のことですが、時がたつてくると熊谷に来ていたことなど、新しいことが分かってきたそうです。

一粒の麦句会 令和四年三月 第十五回 兼題「百千鳥」「桃の花」当季雑詠 近江 良千 季香 春華 遊美 蘭

ゆうえん 亡き人に心をこめて JAくまがや指定

くまがやグループ くまがやクリニック KUBOJIMA CLINIC

株式会社 平松 代表取締役 日向研一郎

熊谷の風土と歴史の香りをお届けします 近江屋酒店